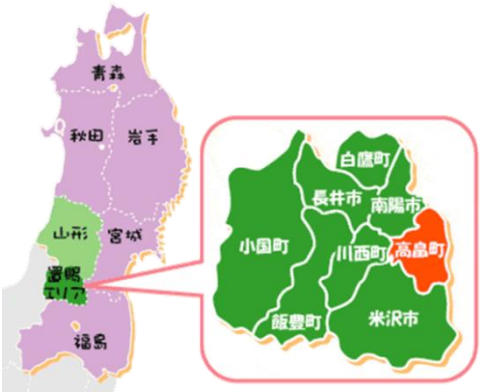
○山形県高畠町

山形県高畠町教育長　丸山信也

《山形県高畠町の紹介》

高畠町は、山形県の南東部に位置し、宮城県と福島県に県境を接する　人口２４，０００人の町です。主な産業は、農業を中心とし、製造業や食品加工業が多い。特に果樹栽培がさかんで、ぶどうのデラウェアは生産量日本一であり、西洋梨のラ・フランスは発祥の地とされています。

また高畠町は縄文草創期、一万年前から人々が住んでいたという史跡も多く、太古より実り豊かな土地でありました。



《ＥＳＤ関連の取組み》

①有機農業の先駆的取組み

１９７３年、化学肥料や除草剤を使用した近代的な農業に疑問を持った若手農民３８名が「高畠町有機農業研究会」を結成したのが、高畠町の有機農業のはじまりです。

その目的は「環境破壊を伴わない農法によって、地力を維持培養し、安全で質の良い食べ物を生産する」というもの。今から４５年前に、環境問題を視野に入れた若い農業集団が誕生したということは、当時画期的な出来事だったと思います。

しかし、化学肥料や除草剤を使わず、たい肥をベースにした前近代的なやり方で稲作に取り組む若者の姿は、時代錯誤と映っていたようで、周りからの風当たりも強かったようです。しかし、その信念を貫き、実践してきたことで、徐々にその考え方に共感する都市部の消費者も現れ、都市と農村との交流や連携がはじまりました。交流の結果、７０名を超える都市部の方々が高畠町に移住されました。

現在、有機農業の先駆的な取組みを行ってきた方々は高齢となりましたが、その思いを受け継ぐ担い手がそれぞれの取組みを実践しております。

その一つに「上和田有機米生産組合」の取組みがあげられます。実は、「上和田有機米政策組合」は、立教大学と３０年にわたる交流があり、年１回、立教大生が高畠町を訪れ、援農体験をされております。また、立教大学で１０月に開催されます「ホームカミングデー」では、高畠町で援農体験をした学生が有機米の販売を行う等の取組みを行っております。さらに、池袋キャンパスの第一食堂にお米の提供も行っております。

これらの取組みには、上和田有機米生産組合の若手農家も加わっており、先人の思いを受け継ぐ担い手の存在は持続可能な地域づくりを大きく後押ししていると心強く思っています。

②環境教育の実践

高畠町は、これまで環境に配慮したまちづくりを行ってきました。

具体的には、「高畠町環境基本条例」を制定し、その行動指針として「環境基本計画」を策定、実施しています。また、環境ＩＳＯ 14001 を事業所として取得し、町職員自ら率先垂範による環境のまちづくりを推進しております。現在は、自己決定による宣言を行い、その運用を行っております。

また、次代を担う小中学生に対する環境教育も積極的に取り組んでおります。その特徴として、「総合的な学習の時間」を利活用した取組みを行っていることがあげられます。

「総合的な学習の時間」とは、「自分で何をすべきかを見つけ、自ら考え、しっかりした自分の考え方や立場を持って判断し、行動し、よりよく問題を解決しようとする力」を養うことが目的であると考えており、環境に関するテーマを設定しそれを学習することで、町の将来を担う若い世代が、それらを活かし持続可能なまちづくりに参画してほしいという思いがあります。

その環境教育を行ううえでの到達点、目標として定めたのは、「グリーンコンシューマー」の育成をめざすというものです。「グリーンコンシューマー」とは、無駄をせず節約に努め、モノを長く大切に使う、目先の利便性よりも未来の安全を大切にするという意識で実践する人のことです。その過程で、体験等を通じて、町の自然や生活環境に目を向け、課題意識を持たせると同時に、環境にやさしいライフスタイルを実践する意識を醸成することをめざし取組みを進めました。

《持続可能なまちづくりをめざして》

これまで高畠町の先人たちが築きあげてきた有機農業も現在行っている環境教育も、すべて、この町で生きていくことを困難にする問題・課題について、考え、立ち向かい、解決するための学びと実践であると考えております。

私たちは、縄文時代から連綿と続く高畠町の美しい自然を守り、この豊かな地域を後世に継承していくため、持続可能なまちづくりを推進し、その担い手の育成に力を注いでいきたいと考えております。